

教区創立100周年準備企画 分かち合い劇  
「ヨブ記～K氏の場合」

[日 時] 2026年2月23日(月・祝)  
13時開演 終了後感謝ミサ  
司式:ヨゼフ・アベイア司教  
[場 所] カテドラル大名町教会 大聖堂  
[問合せ先] ☎ 080-5270-2657(濱崎)

一ひとはなぜ、  
この世で苦しまねば  
ならないのかー



病を得てヨブに出会った一人の信徒。皆参加して共に与えられた「いのち」の意味を考えませんか?

脚本は信徒によるオリジナル、演出もキャラクターや音楽も全てが信徒による手作りです。劇終了後には参加した皆さんにヨブ記への思いを文章にしていただき、感謝ミサの中で奉納いたします。実り多き四旬節の一日となりますように。



画: MINO CEREZO 神父

平和を求めて

今年のテーマは「あなたのためには、武器を取り除く平和」に向けて。このように平和への呼びかけを新たにされた教皇レオ14世のメッセージは、QRコードで全文をご覧いただけます。

毎年のように、教皇は1月1日に世界平和の日のメッセージを発表されます。教皇セオ14世にとっては最初の平和メッセージです。最近の世界情勢を考えると、改めて教皇に選ばれたとき、聖ペト

レオ14世のメッセージは、タイトルから英語の原文を引用します。

「Towards an unarmed and disarming peace」。

毎年のように、教皇は1月1日に世界平和の日のメッセージを発表されます。教皇セオ14世にとっては最初の平和メッセージです。最近の世界情勢を考えると、改めて教皇に選ばれたとき、聖ペト

## 2025年聖年閉幕ミサ



前教皇フランシスコは私に「希望の巡礼者」として歩むように呼びかけた。司教は説教の初めに、世界に和解と平和の必要を感じる今、このテーマはまさに時宜にかなつて強調した。さら

に聖年を実り多くするための大なる4つの要素について話進めた。それらは「みことばに耳を傾けるだけでなく

「復活したイエスの平和は、武器のない平和です。なぜなら、イエスの戦いは、武器なしに、歴史的・政治的・社会的状況の中で行われたからです」。世界の問題に対し

て無力を感じますが、その

「武器なき平和」とは、多く

の人々に非現実的に聞こえ

ると思います。教皇は、これ

に対してもつてはつきりと述べま

す。

「復活したイエスの平和

は、武器のない平和です。なぜなら、イエスの戦いは、武器なしに、歴史的・政治的・社会的状況の中で行われたからです」。世界の問題に対し

て無力を感じますが、その

「武器なき平和」とは、多く

</div



## ◆ 福岡教区創立100周年に向けて ◆

2027年7月16日、福岡教区は創立100周年を迎えます。これを受け、教区報では、各小教区や団体が100周年に向け取り組んでいること、心がけていることなどについて具体的な活動を紹介していきます。

「創立100周年」の情報は右記QRコードからご覧になれます。



## 巡礼指定教会の取り組み

## 8. 大名町教会「多様さで一致を目指して」

多様さのおかげで実り多かった巡礼旅行



カテドラルであることもあり、教区内にとどまらず全国からの巡礼者の訪問があった。また、外国からの巡礼団も数えきれないほどであり、韓国、台湾、香港、シンガポール、ベトナム等に加え、ヨーロッパからも巡礼者をお迎えした。

小教区としては、去る9月、大型バス2台を連ねて熊本地区への巡礼を行った。訪問した八代教会、キリスト教殉教者記念公園、島崎教会では心温まるおもてなしを受け、殉教者の歴史について貴重な学びをいただいた。英語ミサ、ベトナム語ミサグループから多くの参加があり、バスの中での分かち合いは深く、次回の巡礼企画を望む声が聞かれた。

英語ミサ、ベトナム語ミサ、日本語ミサグループ合同で開催した秋祭りには、多数の参加者があった。各グループによる食事の準備、歌やダンス、ビンゴゲームなどで楽しい時を過ごしたが、合同で開催できたことは大きな喜びであり、感謝であった。

大名町教会 信徒会長 吉田俊雄

教区創立100周年の準備にあたって、年初に確認したことは、特に次の2点であった。一つは、聖年を有意義に過ごすこと。二つ目は、宣教司牧方針の目標である外国籍の方々との交わり、一致を深めることである。そのため、「聖年のしおり」を作成してアベイア司教様に内容の確認をいたぐとともに、巡礼スタンプを作り設置した。また、「聖年の祈り」のカードを、日本語、英語、ベトナム語の3カ国語で作成した。

誕夜半のミサは始まった。タガログ語とベトナム語の朗読、ブイティ・答唱詩編。奉納の奉仕も多国



多様な言語で捧げられる降誕ミサ

聖堂いっぱいに人が集い「しづけき」が歌われるなか、ヨセフ、聖マリア、ともしびを抱く子どもたちと3カ国の若者たちが毎年飾つてくれる馬の行列で主の降誕夜半のミサは始まった。

「聖靈は、たまもの多種多様な豊かさを生み出すと同時に一致を築きます。この一致性は決して画一的なものではなく、引き寄せる力を持つた多様性の調和です。福音化と

の旅が終わることはない。聖なる日、各小教区では言葉を超えて、世代を超えて、あるいは自身の名前で思いを巡らせながら静謐な祈りと歌を捧げた。ここに紹介できるのはほんの一部だが、降誕の夜と新しき朝に訪れたそれぞれの交わりの中に、未来へ開かれた教会を、そして武器なき世界の姿を垣間見ることができる。

# 教会で過ごすクリスマス・年末年始 神に栄光 人に平和

籍チームが担当。聖歌は英語、ベトナム語、日本語でうたわれ、多様性における一致を味わう時間を過ごした。タガログ語で朗読奉仕した清家アナリザさんは「アンティイボロ(出

身地)の教会でもきょう同じことばで朗読がされる」と感慨深げに語ってくれた。

夜半ミサは懐かしい顔と出

会える貴重な場でもあった。

30年前に留学生として大牟

田で暮らした男性がミサに参

加していく、旧知の人たちか

らニックネームで呼ばれ、旧



